

二〇〇七年度大会の概況

日本思想史学会二〇〇七年度大会は、十月二十日(土)・二十一日(日)の両日、長崎歴史文化博物館ならびに長崎大学を会場として開催された。

第一日は、「日本思想史の問題としてのキリシタン―思想と暴力―」をテーマにシンポジウムが行われた。

趣旨説明 (長崎大学) 佐久間 正
報告

近世国家の宗教編成とキリシタン排撃

(大谷大学名誉教授) 大桑 斉

キリシタンと「殉教」の論理―キリスト教伝来の意味と殉教への道―
(東京大学名誉教授) 五野井隆史

司 会 (広島大学) 中村 春作

コメント (皇學館大学) 白山芳太郎
(岡山大学) 高橋 文博

シンポジウム終了後、総会が行われ、評議員会より二〇

〇六年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認

された。続いて二〇〇七年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員会案通り決定された。また、第一回日本思想史学会奨励賞の授与が行われた。受賞業績は次の二点である。

河野 有理 「田口卯吉の夢―「郡県」の商業と「自愛」の秩序―」

兵頭 晶子 「大正期の「精神」概念―大本教と『変態心理』の相剋を通して―」

引き続き、セントヒル長崎にて懇親会が開催された。

第二日の研究発表、パネルセッションの発表者と発表題目は以下の通りである(副題省略)。

〈第一会場〉

研究発表

1、『麗気記』の神体図について

(日本学術振興会特別研究員) 鈴木 英之

2、中世における二神約諾思想

3、鈴木正三の『万民徳用』考
(皇學館大学) 山口 剛史

4、南蛮学の終末 (イオンド大学名誉教授) 澤 大洋
(愛知学院大学) 三浦 雅彦

5、士道論再考 (東北大学大学院) 中嶋 英介
(東北大学大学院) 中嶋 英介

6、荻生徂徠における礼楽論の特徴
(広島大学大学院) 陳 貞竹

7、江戸期における蝦夷観の変遷について
(中部大学大学院) 増澤 智史

8、平田篤胤の『出定笑語』及び附録とその波紋
(早稲田大学) 中川 和明

9、南里有隣『神理十要』におけるキリスト教の影響
(愛知教育大学) 前田 勉

10、幕末海防論と栗本鋤雲
(東北大学大学院) 石澤 理如

〈第二会場〉

研究発表

1、「帝国」日本の誕生 (東北大学) 桐原 健真

2、「論壇」の成立 (東北大学大学院) 岡安 儀之

3、明治初期におけるモンテスキュー『法の精神』受容の諸相 (学習院大学大学院) 金子 元

4、元田永孚の天皇論と儒学的君主論

5、中国商人団体の国家観念に関する一考察
(広島大学大学院) Andy Bangkit Setiawan

6、森有礼の商業教育論 (鳥根県立大学) 于 臣
(日本学術振興会特別研究員) 武藤秀太郎

7、徳富蘇峰の「同情」的職業論
(同志社大学) 近藤 裕樹

8、明治後期における洪沢栄一の実業構想と道徳
(同志社大学大学院) 羽生 正人

9、小崎弘道の教会論と日本組合基督教會
(筑波大学大学院) 坂井 悠佳

10、土田杏村の大正「新時代」における意識と文明思潮
(名古屋大学大学院) 川合 大輔

〈第三会場〉

研究発表

1、戦時期雑誌メディアにおける「東亜協同体」論
(東京大学大学院) 大澤 聡

2、柳田國男の歴史認識 (大阪教育大学) 塩野 雅代

3、「歴史」と「哲学」との狭間での京都学派の歴史哲学
(大阪教育大学) 杉本 耕一

4、沖繩知識人の思想変遷について (日本学術振興会特別研究員) 櫻澤 誠

5、近世思想史における仏教の意義

(日本学術振興会特別研究員) 西村 玲

6、加藤周一と「日本文学史」の戦後空間

(慈済大学) 笹沼 俊暁

パネルセッション…天台宗談義所における知の形成―柏原談義所を中心に―

司 会 (北九州市立大学) 佐藤 真人
報 告

柏原談義所の成立をめぐって (東北大学) 曾根原 理

談義所と本草学 (池坊短期大学) 松本 公一

湖東地域における真言教学と天台教学

(関西大学) 大島 薫

大会終了後には、十月二十二日(月)から二十三日(火)にわたって、外海、佐世保、平戸、生月方面のエクスカージョンが実施された。